

平成27年度 開明中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

【建学の精神】

校訓「研精而不倦」(本校では、知・徳・体すべてにわたって自己を磨き続けることと解し、教育活動の実践的な柱としています。)

【教育目標】

- 1 男女共同参画社会において、社会のリーダーとして活躍する人間の育成
- 2 文系・理系を問わず、理数の素養を身につけ、21世紀の情報化社会に対応できる人間の育成
- 3 世界的視野に立ち、国際感覚に富む人間の育成
- 4 思いやりの心を持ち、社会的常識を備えた人間の育成
- 5 正しい生活習慣を身につけた、心身ともに健全な人間の育成

2 中期的目標

1 学習指導・進路指導

- (1) 授業改革(これまでの小テストを中心とした学習スタイルから、よく考えて勉強するいい学習習慣への転換を図るべく、学校全体で「授業改革」というスローガンを掲げて進める。)
- (2) 学ぶことの「意味」と「楽しさ」の追求
- (3) 指導力の向上

2 生徒指導・人権健康教育

- (1) 授業規律
- (2) 校則遵守
- (3) いじめの防止

3 行事・クラブ活動

- (1) 行事への積極的な参加
- (2) クラブ活動への自由な参加

4 施設・設備

- (1) 新校舎のフル活用

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [生徒・保護者：平成27年12月実施、教職員：平成28年2月実施]	学校評価委員会からの意見
<p>【前年度と比較した肯定的評価(A+B)の概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・・・34項目中、19項目(56%)で改善 ・ 保護者・・・28項目中、14項目(50%)で改善 ・ 教職員・・・41項目中、30項目(73%)で改善 <p>【生徒】</p> <p>○ 肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この学校は、生徒に清掃、校内美化にしっかり取り組ませている。(肯定率73.8%。昨年度より5.6%増。) ・ この学校の生徒は、校則を守っている。(肯定率65.3%。昨年度より3.9%増。) ・ この学校では、他の人に知られたくないプライバシー(個人情報)は守ってくれる。(肯定率85.1%。昨年度より3.3%増。) ・ この学校の先生は、私語や居眠りなどはよく注意する。(肯定率87.7%。昨年度より3.0%増。) <p>○ 肯定的評価が減少した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、予習や復習をして授業を受けている。(肯定率66.8%。昨年度より4.5%減。) ・ この学校は、遅刻する生徒が少ない。(肯定率57.1%。昨年度より3.7%減。) ・ この学校の生活指導について、先生方の指導は適切である。(肯定率72.9%。昨年度より3.5%減。) <p>【保護者】</p> <p>○ 肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもは、この学校の授業は分かりやすいと言っている。(肯定率79.4%。昨年度より2.3%増。) ・ この学校には、子どもの心身の健康について相談できる体制がある。(肯定率81.4%。昨年度より1.4%増。) ・ この学校は、生徒の学習や進路に関する情報を適切に保護者に伝えている。(肯定率85.5%。昨年度より1.3%増。) <p>○ 肯定的評価が減少した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この学校は、地震や台風など非常時の緊急連絡体制を保護者に知らせている。(肯定率85.3%。昨年度より6.7%減。) <p>【教職員】</p>	<p>平成28年5月21日に学校評価委員会を実施。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「遅刻する生徒が少ない」の項目で生徒の肯定率が下がっているが、実際の記録上では遅刻数は増えていない。これは多くの生徒が、遅刻を無くしたいと考えている結果だととらえることもでき、もしそうであれば、意識の高い生徒が増えているとも考えられる。 ・ 「子どもの心身の健康について相談できる体制がある」の保護者の肯定率が高いのは、週3回、2人のカウンセラーによるカウンセリング体制があることも大きな要因であると考えられる。 ・ 進路指導の中で、進路講演会以外にも、卒業生から直接話を聞く機会も設けているが、生徒にはとてもいい刺激になっていると考えられるので、そのような機会をさらに増やしてほしい。 ・ 「学校は非常時の緊急連絡体制を保護者に知らせている」という項目の肯定率が下がったが、これは昨年度、環状線が止まった時の休校の連絡が遅れたことがあり、そのためであろうと考えられる。それ以降そのような連絡の遅れはないが、今後とも気を付けていきたい。

<p>○ 肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では、避難訓練を行なうなどして、生徒・教職員の防災意識・安全意識を高めている。(肯定率 75.6%。昨年度より 32.4%増) ・ 本校では、問題行動の防止に向け、キャンペーンを張るなど早期指導を心がけている。(肯定率 75.6%。昨年度より 13.1%増。) ・ 本校では、生徒に清掃、校内美化に取り組み、施設設備を大切にすることを養っている。(肯定率 72.0%。昨年度より 12.7%増。) <p>○ 肯定的評価が減少した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、教員同士の授業相互見学等に参加し、授業力アップに努めている。(肯定率 65.9%。昨年度より 9.1%減。) 	
--	--

3 PDCAサイクルに基づく評価結果

中期的目標	Plan		Do	Check	Action
	重点的に取り組むことが必要な目標	評価指標	取組状況	達成状況	今後の改善方策
1 学習指導・進路指導	(1) 授業改革	ア「この学校は、内容の分かりやすい授業が多い。」(生徒アンケート) イ「私は、予習や復習をして授業を受けている。」(生徒アンケート)	ア 基礎学力の定着と学習意欲の向上に努め、手厚く丁寧な学習指導を実践 イ 予習復習にきちんと時間を割き、授業を中心とした学習スタイルを身に付けさせる	ア 肯定率 88.0%。昨年度より 0.3%減。 イ 肯定率 66.8%。昨年度より 4.5%減。	引き続き分かりやすい授業を展開していく一方、授業内容の一層の定着を図るため、予習復習の励行をより強力に押し進めていく。 27年度は3月10日に京都大学の杉本淑彦氏をお招きし進路講演会を実施した。次年度以降も継続したい。 年に数回の研究授業を行なっているが、日常的にもっと頻繁に授業の相互見学を行なうことを奨励し、さらなる授業力アップに努めたい。
	(2) 学ぶことの「意味」と「楽しさ」の追求	ア「H.R(道徳)の時間などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」(生徒アンケート)	ア 進路講演会の実施やH.R(道徳)などで将来の進路や生き方について考えさせる	ア 肯定率 73.5%。昨年度より 1.0%増。	
	(3) 指導力の向上	ア「本校では、教員間で授業を見学したり、授業の内容等について意見交換を行う機会を設けている。」(教職員アンケート)	ア 研究授業(教員間での授業見学)の実施により、指導力のアップを図る	ア 肯定率 79.3%。昨年度より 3.2%と減少。また、「私は、教員同士の授業相互見学等に参加し、授業力アップに努めている。」でも肯定率 65.9%で昨年度より 9.1%の減となった。	
2 生徒指導・人権健康教育	(1) 授業規律	ア「この学校の先生は、私語や居眠りなどはよく注意する。」(生徒アンケート)	ア 授業規律についての基本的な考え方を確認し、指導の統一性を図る	ア 肯定率 87.7%。昨年度より 3.0%増。	高い肯定率となったものの、授業は学校生活の中心であり最重要の教育活動であることから、さらなる改善をめざしたい。 本校の生徒指導の目的は「社会のリーダーにふさわしい善良な市民を育成する」ことであり、校則は学校・家庭・校外生活における生活規範としている。昨年度より上昇したものの、60%台の肯定率は、決して高いとは言えない。次年度に向けさらに改善を図りたい。 引き続き、「いじめ防止基本方針」に基づき、学校として取り組んでいく。
	(2) 校則遵守	ア「この学校の生徒は、校則を守っている。」(生徒アンケート)	ア 校則(あいさつの励行、環境美化、服装、頭髪、礼儀、通学時のマナー、男女交際等)の遵守に努める	ア 肯定率 65.3%。昨年度より 3.9%増。	
	(3) いじめの防止	ア「この学校は、人権侵害や差別を許さない教育、特にいじめの防止にはしっかり取り組んでいる。」(生徒アンケート)	ア いじめは絶対許さないというクラスの雰囲気づくりや人間関係づくりに努める	ア 肯定率 82.3%。昨年度より 2.1%増。平成 26 年 5 月 8 日に「いじめ防止基本方針」を策定・公表し、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進している。	

3 行事・クラブ活動	(1)行事への積極的な参加	ア「行事は、生徒みんなが楽しく参加できるように行なわれている。」(生徒アンケート)	ア 行事の意義を理解させ、生徒の積極的な参加を図る	ア 肯定率 77.5%。昨年度より0.6%減。	行事では本物に触れ、知性・感性を刺激し、興味・関心・知的好奇心の広がりを図ることができ、本校教育の中では非常に大きな比重を占めている。生徒にこうした実体験を積ませるためにも、行事のあり方について研究を続ける。
	(2)クラブ活動への自由な参加	ア「この学校のクラブ活動は盛んである。」(生徒アンケート)	ア クラブ活動の役割を重視し、より多くの生徒が参加できるよう態勢を整え、クラブ活動の活性化を図る	ア 肯定率 53.7%。昨年度より0.3%減。	本校のクラブ活動は、平成 17 年に共学化の進行に合わせて議論を重ね確定した「クラブ活動基準」に基づいて行われている。クラブに所属している生徒が、勉強とクラブ活動を無理なく両立できるようにとの趣旨で学校として活動の基準を定め、生徒の学習環境を保証しようとしている。 また、「この学校のクラブ活動の日数は適切である。」の肯定率が低いことから、活動基準の真意がまだ十分に浸透していないことが窺えるので、より多くの生徒・保護者に理解をいただけるよう努めていく。
4 施設・設備	(1)新校舎のフル活用	ア「この学校の施設設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。」(保護者アンケート)	ア 新校舎の施設・設備を最大限に活用し、教育水準のグレードアップを図る	ア 肯定率 92.2%。昨年度より1.4%減。	英語のリスニング等の技能を高めるため、CALLシステムの一層の活用を推し進めたい。 また、図書館(蔵書検索 PC や視聴覚設備を設置)や自習室(質問をしやすくするため職員室近くに中高別々で設置)の利用も広げていきたい。